

# 逃げやすい距離 300〜550メートル

## 自宅から避難施設 本社ネット調査

### 「遠すぎる」平均1345メートル

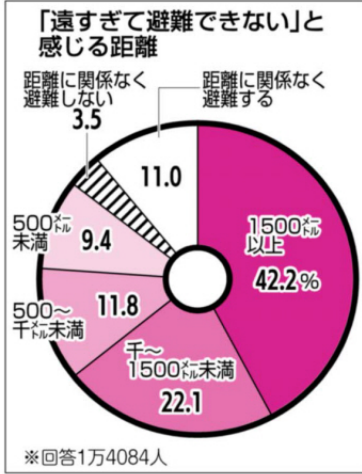
災害時に住民が自宅から避難する際、逃げやすいと感じる避難施設までの距離は約300〜550メートルであることが17日、中国新聞社などが実施した全国インターネット調査で分かった。昨年7月の西日本豪雨で自宅やその周辺で被災した広島県内の犠牲者69人のうち、避難施設が550メートルより遠くにあった人は半数以上を占めていた。避難施設の増設や配置の工夫、住民の移動手段の確保が課題に浮かんた15面に特集。

(災害取材班)

## いのちを守る

### 検証 西日本豪雨

調査は3月下旬、県立広島大（広島市南区）、民間調査会社サーベイリサーチセンター（東京）と共同で全国約2万人のネットモニター登録者を対象に実施。市場動向を調べたり消費行動を促したりするマーケティングの手法も採り入れ、「早めの避難」につながる方策や環境を探った。



自宅から避難施設までの距離については、都道府県ごとに約3000人を抽出し、た計1万4084人に聞いた。「遠すぎて避難できない」と感じる距離を100問を組み合わせ分析した。

結果、避難しやすいと感じる距離は約300〜550メートルで、約400メートルが理想的

と推定された。土石流に巻き込まれるなどした西日本豪雨での直接死は広島県内で109人。うち69人は自宅やその敷地内で被災した。中国新聞社がこの69人について自宅から最寄りの避難施設までの距離を調べた結果、38人55・1%が550メートル以上と判明。うち17人24・6%は「遠すぎて避難できない」と感じる平均値の約1・3倍以上だった。最大で約2・7キロ離れていた人もいた。

調査ではこのほか、早期避難につながる具体策としてショッピングモールなど商業施設を避難場所として活用することや、お年寄り向け避難バスの運行などを望む声が目立った。

調査結果を分析した県立広島大大学院の江戶克栄教授（防災マーケティング）は「早めの避難実現のためには、住民が真に望む避難の具体策を示す必要がある。国や行政はさまざまな観点から検討するべきだ」と指摘する。